

## 第31期目録委員会記録 No.14

### 第14回委員会

日時：2008年11月22日（土）14時10分～16時20分

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：中井委員長，稲浜，平田，古川，横山，渡邊

<事務局>磯部

#### [配付資料]

1. *Statement of International Cataloguing Principles* (2008.10.31現在 修正箇所ハイライト版)  
(7ページ-A4, 事務局コピー)
2. *ICP Glossary* (2008.10.31現在 修正箇所ハイライト版) (6ページ-A4, 事務局コピー)
3. 国際目録原則覚書 (資料1の和訳) (11ページ-A4, 中井委員長)
4. 用語集 (資料2の和訳) (7ページ-A4, 中井委員長)
5. *RDA Full Draft. Table of Contents & Chap. 1-4* (計387ページ-A4, 事務局コピー)
6. *RDA Full Draft. Chap. 0., Introduction* (20ページ-A4, 事務局コピー)
7. *RDA Scope and Structure* (2008.10.28版) (13ページ-A4, 事務局コピー)
8. *RDA Element Analysis* (2008.10.28版) (22ページ-A4, 事務局コピー)
9. RDA最終草案の構成 (3ページ-A4, 古川委員)
10. *Full Draft of RDA Chap. 0, Introduction* [概要説明] (8ページ-A4, 中井委員長)
11. セクション1のコア・エレメント一覧と分担 (1ページ-A4, 古川委員)
12. 第31期目録委員会記録 No.11 (3ページ-A4, 事務局)
13. 第31期目録委員会記録 No.12 (2ページ-A4, 事務局)
14. 第31期目録委員会記録 No.13 (案) (4ページ-A4, 事務局)

#### [報告事項]

1. ISBD統合版の例示について

委員長より、本文の日本語例示の誤りを文書で指摘した旨、報告があった。

稲浜委員より、例示集収録予定の原稿についてISBD Review Groupから「テープの数量」に関して修正確認の依頼があり、回答済である旨、報告があった。

2. 各種行事予定について

平田委員より、NACSIS-CAT所蔵レコード1億件突破を記念して2009年2月6日（金）に講演会等を開催予定である旨、報告があった。

中井委員長より、11月28日（金）に国立国会図書館にて書誌調整連絡会議を開催する旨、報告があった。

## [検討事項]

### 1. 「国際目録原則」最終草案について

横山委員より資料1,2に基づき、経緯の説明があった。最終草案がIME ICC各回の出席者に示され、11月14日〆切で投票が求められた。本委員会からは、IME ICC4の出席者である横山委員、渡邊委員が同意する旨の投票を行った。このうち横山委員は、6月に本委員会から提出した意見のうち未反映のもの等について意見を述べたが、今回は字句訂正等にとどまらない修正は行わない予定である旨、IME ICC企画委員会議長より回答があった。

次いで中井委員長より資料3,4に基づき、国立国会図書館で最終草案の和訳を作成した旨、報告があった。訳語をいくつか見直しているが、なお検討の余地が残っている。

年内をめどに、完成の予定とされている。国立国会図書館では完成版の和訳を作成することとなるが、訳語等に関する意見は各委員が整理しておき、完成版和訳作業の段階で持ち寄ることとした。

### 2. RDAの最終草案について

11月17日に最終草案が公表されたが、大部にわたるため今回は部分的な資料配付(資料5~8)にとどめ、全体概要の共有と今後の進め方の検討を行った。

古川委員より資料9に基づき、草案の全体構成について説明があった。概略は以下の通りである。

- ・ 本体は、属性を扱う部(セクション1~4、16章)と関連を扱う部(セクション5~10、21章)から成り、その前後に序論・付録・用語解説がある。
- ・ 主題目録法に関わる章は2009年の刊行時には未刊である。
- ・ 属性を扱う部は、体現形・個別資料(セクション1)、著作・表現形(セクション2)、個人・家族・団体(セクション3)、概念・物・出来事・場所(セクション4)とセクションを分けて扱われ、セクション内では必要に応じてFRBRのユーザタスク(識別・選択・入手)により分けた章立てが行われている。
- ・ 関連を扱う部は、実体をFRBRの第1グループ、第2グループ、第3グループに分け、同一グループに属する実体間の関連、グループ1とグループ2の関連、そして著作とグループ3との関連、に分けたセクション立てになっている。このうちグループ1の実体間の関連には、縦の「主要な関連」を扱うセクション5と、横の関連を扱うセクション8が設けられている。
- ・ A~Mの13種の付録がある。特に、関連の種類を示す付録I~Lは重要であり、精査の必要がある。また、本体では扱わないシンタックスに関する付録D, Eがある。
- ・ 用語集もAACR2と比べて大幅に増強され、特にメタデータ関連の用語が多く含まれたようである。

中井委員長より資料6, 10に基づき、0章(序論)の概要に関する説明があり、若干の意見交換を行った。主な指摘事項は以下の通りである。

- ・ 目的と対象範囲、主要な特徴、基礎となる概念モデル、等を述べたあと、リソースの記述とアクセスをつかさどる「目標 (Objectives)」と「原則 (Principles)」をあげている。ついで全体構成を述べ、各セクションの「コア要素(Core Elements)」を列挙している。続いてアクセスポイント、二者択一事項等、例示、「国際化」(言語・文字・日付等の扱い)を述べ、最後にエンコーディングについて述べている。
- ・ 委員会の付帯文書のうち、RDA Scope and Structure, RDA Objective and Principles, RDA Prospectusから取り込んだ内容がある。
- ・ コンセプトや方針に関わる記述は全体的に簡略で、物足りなさが残る。
- ・ 「目標」と「原則」の切り分けは、国際目録原則と比較して、微妙に違いが見られる。
- ・ RDAは図書館界だけでなく他の分野でも使用されることを意図の一つとしていたはずだが、それが序論からはうかがえなくなっている。
- ・ 重要な事項とされてきたメタデータコミュニティとの接合が本章からはあまりうかがえない。DCMI抽象モデルを基盤としたRDA Element Analysis (資料8)等の内容はほとんど反映されていない。委員会の付帯文書と規則本体との関係は刊行時にはどうなるのか、注意の必要がある。

次回以降の委員会で、セクション1(1~4章)のレビューを行うこととした。古川委員作成の案に沿って、次の分担で進める。

- ・ 各章の概観  
古川(1章)、稲浜(2章)、渡邊(3章)、横山(4章)
- ・ コア・エレメントの検討  
稲浜: Title proper ~ Later variant title  
木下: Statement of responsibility  
中井: Designation of edition, Designation of a named version of an edition  
平田: Numeric and/or alphabetic designation, Chronological designation  
古川: Publisher's name ~ Copyright date  
横山: Title proper of series ~ Carrier type  
渡邊: Extent

### 3. 議事録確認

第13回記録案(資料14)を確認した。

次回以降の委員会の予定

12月13日(土)

1月24日(土)

以上